

調査全体の概要

1. 調査の目的

この調査は、へき地における保健医療サービスの現状、へき地住民の健康問題およびへき地における看護活動の現状と問題点を明らかにして、今後へき地住民の健康水準の向上と十全な看護活動の展開のための条件整備を推進していくための基礎資料とすることを目的としている。

調査は次の3種類に分かれているが、それぞれの目的は次のとおりである。

1) 豪雪地および離島の保健医療状況調査（以下地区状況調査という）

へき地住民にとっての保健医療サービスの利用可能性と利用状況、及び住民の健康問題を、保健婦の目を通して明らかにする。

2) 豪雪地および離島住民の保健医療に関する意識調査（以下住民調査という）

へき地住民の健康についての考え方や各種保健医療サービスの利用状況を直接住民に聞き明らかにする。

3) 保健婦等の活動体制と生活についての調査（以下保健婦調査という）

へき地における保健婦業務の実態と、保健婦活動を困難にしている原因とを明らかにする。

2. 調査の対象

へき地の保健医療問題は日本全国に広く存在するが、本調査ではその中でも豪雪地および広大な平地の無医地区と、本土から隔っている島とへき地性の最も高い地域と考え、それらを多く有する次の道・県を調査の対象県とさだめた。

豪雪県として……………新潟県・秋田県

広大な平坦地として……………北海道

外海離島の多い県として……………鹿児島県

内海離島の多い県として……………愛媛県

調査の種類ごとの調査対象は次のとおりである。

1) 地区状況調査

北海道・秋田県・新潟県下の道・県が把握している無医地区及び、愛媛県・鹿児島県下の有人島と島内無医地区。

2) 住民調査

北海道・秋田県・新潟県の無医地区住民及び、愛媛県・鹿児島県の離島住民。

3) 保健婦調査

北海道・秋田県・新潟県・愛媛県・鹿児島県の保健婦。

なお、地区状況調査と住民調査については、本土無医地区と離島という調査対象の違いにより一部

調査項目が異なるため、調査票はそれぞれ2種類作成した。ただし豪雪地無医地区と平坦地無医地区とは、同じ調査票を用いているため、両者を一括して豪雪地として扱っている。

3. 調査の時期

それぞれ次の期間に調査を実施した。なお調査実施時現在についての調査である。

北海道……………昭和52年7～10月

秋田県……………昭和52年12月～昭和53年1月

新潟県……………昭和52年7～9月

愛媛県……………昭和52年8～9月

鹿児島県………昭和52年8～9月

4. 調査方法

保健婦調査及び住民調査のうち鹿児島県と愛媛県は自記式であり、その他の調査の調査員は、保健婦である。

調査の前には各県ごとに保健所や市町村などから保健婦の代表者に集ってもらい、本調査の目的と実施要領について説明会をもった。調査票はこれら代表者を通して調査員及び調査対象者に配布、回収し、代表者から直接あるいは県看護係又は県支部を経由で調査研究部に回収した。ただし鹿児島県の住民調査の調査票は、調査研究部から市町村を経て調査対象者に配布、回収された。

なお調査の実施にあたって、各県衛生部、民生部および日本看護協会保健部会各県支部の協力を得た。調査方法の詳細は、調査の種類ごとに後述する。

5. 点 検

記入の点検は記入者自身と調査研究部とが行なった。

6. 集 計

地区状況調査は手集計、住民調査、保健婦調査はコンピューター集計を行なった。

集計方法の詳細は、調査の種類ごとに後述する。

調査の種類別概要

1. 豪雪地および離島の保健医療状況調査（地区状況調査）

○調査対象

秋田県・新潟県の県が把握している全無医地区。

愛媛県・鹿児島県の全有人島及び島内全無医地区。ただし1島が2つ以上の市町村に分かれている場合は1市町村を1票とした。また無医地区がない島については、島内で最も不便な地区を調査対象とした。

北海道の無医地区は数が多いためサンプル調査とした。まず確率比例抽出法により、管内に無医地区を有する36保健所から16保健所をえらび、次に各保健所管内より3市町村をえらび、それらの市町村

より無医地区を2つずつえらんだ。

○調査方法

対象無医地区あるいは島を担当する市町村または保健所保健婦が調査員となり調査員が自分の知っていることについて、あるいは調べたり他の人に聞くなどして記入した。

○調査票配布数・回収数

		配 布 数	有効回収数	有効回収率(%)
北 海 道		102	92	90.2
秋 田 県		66	65	98.5
新 潟 県		56	56	100.0
愛 媛 県	島・市町村	39 (37 島)	32 (30 島)	82.1
	無医地区	8	6	75.0
	不便な地区	30	13	43.3
鹿 児 島 県	島・市町村	43 (29 島)	41 (27 島)	95.3
	無医地区	39	37	94.9
	不便な地区	20	15	75.0

○集 計

県別集計を行なった。また無医地区あるいは離島ごとの状況が分かるように一覧表(付表)を作成した。

2. 豪雪地および離島住民の保健医療に関する意識調査(住民調査)

○調査対象

地区状況調査の対象地区となった北海道の無医地区及び新潟県の全無医地区より各々3名。秋田県の無医地区を有する全市町村より無医地区住民を各々3名。

鹿児島県、愛媛県については、島を有する市町村ごとに次の基準で対象人数をきめた。そしてその人数のうち、島内に無医地区がある場合は1無医地区から4名ずつとし、残りの人数を島内のその他の地区からとした。

市町村当り島の人口総数	対象人数
200人 以下	4人
201~5,000人	8人
5,001~20,000人	12人
20,001人 以上	16人

以上の対象人数を、次の点を考慮して調査員が選んだ。

- 18歳以上 • 性別, 年齢, 職業, 学歴などがたよらないようにする • 1世帯から1人だけ
- 3人のうち, できるだけ昭和50年1月以降の出産経験者と高血圧症の人をそれぞれ1人ずつ含める。

○ 調査方法

北海道, 秋田県, 新潟については, 無医地区を担当する市町村または保健所保健婦が調査員となって, 対象者に対し面接調査をした。離島住民については自記式とし, 愛媛県では島を担当する保健婦, 鹿児島県では市町村が対象者に調査票を配布, 回収した。

○ 調査票配布数・回収数

	配 布 数	有効回収数	有効回収率(%)
北 海 道	306	290	94. 8
秋 田 県	102	101	99. 0
新 潟 県	168	168	100. 0
愛 媛 県	164	164	100. 0
鹿 児 島 県	288	270	93. 8

○ 集 計

県別集計を中心とし, これに設問の種類に応じて, 豪雪地・離島, 対象者年齢別の三重クロス集計, 極めて関連の深い設問間のクロス集計を行なった。また, 離島住民だけをとりあげ離島種類別集計, 北海道内については道内ブロック別集計を行なった。

なお, 三重クロス集計及び設問間のクロス集計については, 県ごとに調査対象者の選び方が異なっているため, それを集計の段階で統計的に調整した。すなわち県ごとの回答者数が, 北海道, 秋田県, 新潟県無医地区の総人口, 愛媛県, 鹿児島県の離島の総人口に比例するよう, 各県ごとに定数をかけた(重みづけをした集計)。

3. 保健婦の活動体制と生活についての調査(保健婦調査)

○ 調査対象

北海道は地区状況調査の対象無医地区を担当する保健婦。新潟県は無医地区を有する市町村に所属する全保健婦及び比較対照群として都市部(8つの市町)に勤務する保健婦。秋田県, 愛媛県, 鹿児島県については保健所及び市町村の全保健婦。

○ 調査方法

自記式

○調査票配布数・回収数

	配 布 数	有効回収数	有効回収率(%)
北 海 道	102	87	80.4
秋 田 県	263	260	98.9
新 潟 県	135	135	100.0
愛 媛 県	267	254	95.5
鹿 児 島 県	208	194	93.3

○集 計

全対象者について職業継続意志別集計を行なった。また、北海道、秋田県、新潟県については無医地区担当者だけ、愛媛県、鹿児島県については島担当者だけを取りあげ、県別集計を行なった。さらに秋田県、愛媛県、鹿児島県については全対象者についての県別集計、新潟県は比較対照群としての都市部の保健婦についての集計を行なった。